しもつけクイズ【正解は③】詳しくは19ページをご覧ください。

更なる50年へ～自治医科大学

病院長あいさつ

自治医科大学附属病院の全職員を代表し、附属病院開院50周年のごあいさつを申し上げます。

附属病院は昭和49年4月の開院以来、栃木県の基幹病院として発展してきました。安全で質の高い医療の提供により地域に貢献するとともに、大学病院、特定機能病院として、最先端医療の進歩にも寄与し続けています。病床数1,132床、診療科47科、総手術件数10,030件など全国トップクラスの診療規模を維持しながら、災害医療、がん診療連携、がんゲノム連携、小児がん連携、エイズ、肝疾患診療連携、難病診療連携、てんかん診療連携、治験など、さまざまな領域で栃木県の拠点となっています。

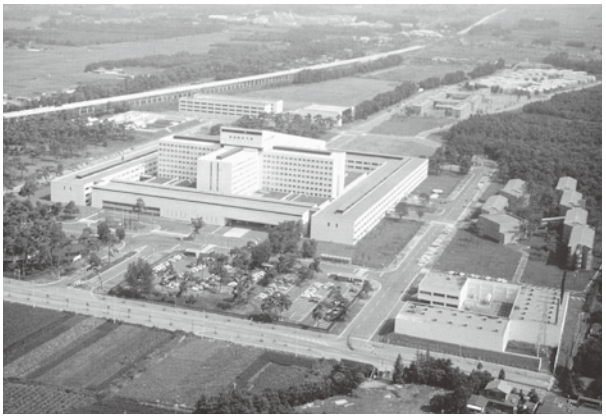
新型コロナウィルス感染症の蔓延（まんえん）以降は、地域の救急医療体制が逼迫（ひっぱく）した状況でも患者さんの受け入れを閉ざすことなく、地域の最後の砦としての機能を果たし続けてきました。今年度も、県内の感染状況に迅速に対応し、万全の感染防御体制で院内での蔓延を抑制しつつ、通常診療を維持してまいります。

附属病院の母体である自治医科大学は、全国の地域医療やへき地医療に従事する医師の養成を建学の理念の一つとしています。附属病院は高い志を持つ医学生達が最初に医療に触れる病院であり、さらに研修医、看護師、医療技師の教育病院でもあります。私達職員は、未来を担う医療人の鑑となるよう日々心がけておりますが、教育病院としての当院の役割にもご理解とご協力を賜れれば幸いです。

附属病院が50周年を迎える今年度も、病院機能のさらなる充実に取り組んでまいります。昨年暮れに稼働を開始したヘリポートを活用して高度救急受け入れ体制を一層充実させるとともに、今年度からは新放射線治療棟を本格稼働させて最新の放射線治療を提供します。また、周術期センターや集中治療病棟の強化にも着手したところです。

附属病院の地名「薬師寺」は、1,300年前、数千人の僧が集まり薬草を栽培し民間医療を提供した下野薬師寺に由来するものです。この伝統ある地で、附属病院はこれからも良質な医療提供に努めてゆく所存ですので、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

自治医科大学附属病院長
川合　謙介



昭和49年頃の自治医科大学全景

令和5年12月の自治医科大学全景

■病院長経歴

昭和62年東京大学医学部卒業。東京大学、総合会津中央病院、米国国立衛生研究所、寺岡記念病院、帝京大学、東京都立神経病院などで脳神経外科臨床および脳神経科学研究の研鑽と実績を積み、東京大学医学部・大学院脳神経外科准教授、NTT東日本関東病院脳神経外科部長を経て、平成28年より自治医科大学脳神経外科教授、令和4年より附属病院長。